

教育問題の根本解決のためには教育行政改革が不可欠 ～そのイニシアティブを三重県から～

(議題 2 関連)

三重県経営戦略会議（第 4 回）委員提出資料
委員 加藤秀樹（構想日本 代表）

1 日本の教育問題の本質 「中央集権型無責任体制」

いじめや教員による不祥事等が尽きません。このように立て続けに事件が起きていることの根本的な原因は、(1) 学校の設置、教員の人事・給与、教育内容等の行政権限と責任が国、都道府県、市町村の間で入り組んでいること、(2) 教育委員会の形式的な権限と実態が一致していないこと、(3) 教育に関する非常に細微な事柄まで国（文科省）が管理していることによって、権限と責任の所在が不明確になり、責任を押し付けあう「無責任体制」に陥ってしまっているという国全体の教育行政制度そのものにあります。

(1) 国、都道府県、市町村間での権限の入り組み

小・中学校の設置は市町村（高校は都道府県）が行い、教員の人事権は都道府県が持ち、教育内容・方法の基準は国（文科省）が定めるなど、教育行政の権限と責任が国、都道府県、市町村の間で入り組んでいます。

詳しくみていくと、たとえば、教員の任免権は都道府県教委が有していますが、一方で、教員のサービスを監督する責任は市町村教委にあります。その結果、学校（教員）は人事権がない市町村教委よりも人事権のある都道府県を重要視しますが、都道府県には日常的な監督責任がなく個別の学校との距離も遠いため、教員へのチェックは機能しなくなってしまう。

(2) 教育委員会の形式的な権限と実態

法律上の形式的な権限を持っているのは教委ですが、教委は複数の委員の合議体であるため責任の所在がわかりにくく本人たちも自覚不足、委員は住民によって直接選ばれていないことから住民に対する責任意識が乏しいのが実状です。また教育委員は非常勤で教育行政の専門家ではないため、日常的に様々な課題を自らの力で検討、決定するのが困難で、実際は委員会事務局が実質的な決定を行っています。（事務局のトップは、教育委員の中で唯一の常勤である教育長が兼任。さらに教育長や事務局の大部分は教員出身者が占めているため、閉鎖的で、学校との関係が甘くなりがちだという批判がある。）

これらの結果、委員会と事務局の間で、実質的な権限と形式的な権限が不一致にな

り、事件等が起こった際にはそれぞれが責任を押し付けあっているという指摘がしばしばなされます。

(3) 国（文科省）による管理と地方の依存

日常の教育行政の権限は、制度上は教委などの「現場」にあります。

一方で、たとえば給食の安全確保や教材・備品等の整備（学校図書館の図書やコンピュータの設置台数等）など、教育に関わる非常に細微なものも含めたあらゆる事柄にまで、文科省から都道府県教委を通じて、日常的に市町村教委に対して様々な「指導・助言」がなされています。市町村教委はこれらに対して従うことに集中し、地域の状況に応じた施策を自ら考えて実施せず、実態として文科省や都道府県教委のコントロール下にあります。

結果として上記2と同様に、国と現場との間で実質的な権限と形式的な権限の不一致が生じます。この場合も事件等が起きた際に、それぞれが責任を押し付けあっているという指摘がなされています。

2 教育課題を根本的に解決するために

上記の通り、いじめ問題等の教育課題を根本的に解決するためには、国全体の教育行政制度そのものを改革しなければなりません。

人口、財政力、風土など地域の実態は多様であり、学校教育の課題も地域によって異なるため、国や都道府県が一元的に管理をするのは無理があります。現場である市町村に権限や選択肢と同時に、責任も持たせて課題に対応できる制度にする必要があります。

今回の第4回三重県経営戦略会議において提示されている論点は、主に現行の制度を前提とした中で対応できる策についてであり、今まさに直面している現状を改善するために不可欠な取り組みとして心から支持しています。

一方で、20年来同様な取り組みが繰り返し議論されていることに鑑みても、制度そのものを変えなければ根本的な解決には至りません。

いじめの問題や教員の不祥事等をきっかけとして、教育に関する問題意識は高まり、静岡県や長野県で教育行政のあり方を検討する委員会が立ち上がるなど、教育課題の根本解決のために制度論に立ち上がった動きが各地で出始めています。それぞれの地域が、現行制度の中で対応可能な策を検討、実施していただくにとどまらず、様々な地域が連携して、国全体の教育行政制度そのものを変えていくための動きを作っていくことが、いじめを始めとする教育課題を根本から解決するために、求められていることです。

是非、三重県が国全体としての教育行政制度そのものを変えていくための道筋を、多くの自治体の旗頭として主張していただきたいと思います。